

DIAM グローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド・ 通貨選択シリーズ 資源国通貨バスケットコース

追加型投信／海外／債券

受益者の皆さまへ

毎々格別のお引立てに預かり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、主として外国投資信託への投資を通じて、世界のハイイールド債券に実質的な投資を行い、高水準のインカムゲインの確保と信託財産の成長をめざして運用を行います。

当作成対象期間につきましても、これに沿った運用を行いました。ここに、運用経過等をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

作成対象期間 2019年11月20日～2020年5月19日

第100期	決算日：2019年12月19日	
第101期	決算日：2020年1月20日	
第102期	決算日：2020年2月19日	
第103期	決算日：2020年3月19日	
第104期	決算日：2020年4月20日	
第105期	決算日：2020年5月19日	
第105期末 (2020年5月19日)	基準価額	2,318円
	純資産総額	427百万円
第100期～ 第105期	騰落率	△26.2%
	分配金合計	250円

(注1) 騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率を表示しています。

(注2) △(白三角)はマイナスを意味しています(以下同じ)。

当ファンドは投資信託約款において、運用報告書(全体版)を電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記のホームページにアクセスし、「基準価額一覧」等から当ファンドの名称を選択いただき、ファンドの詳細ページから閲覧、ダウンロードすることができます。また、運用報告書(全体版)は受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

■運用報告書に関するお問い合わせ先

コールセンター **0120-104-694**

(受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで)

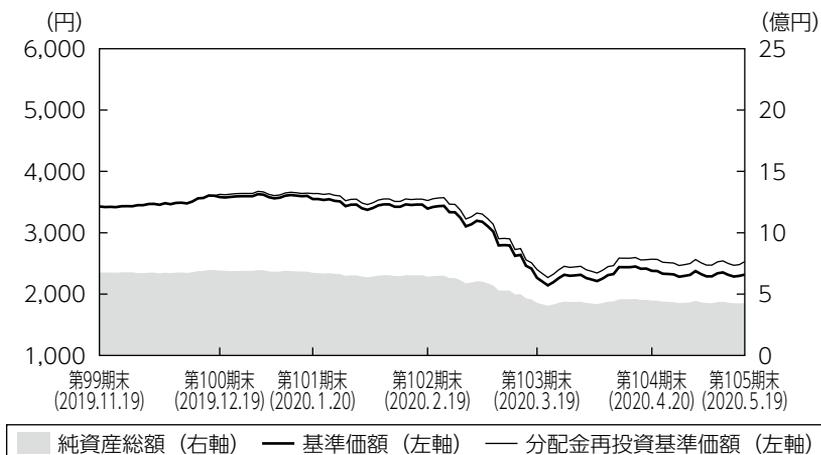
お客さまのお取引内容につきましては、購入された販売会社にお問い合わせください。

アセットマネジメントOne 株式会社

東京都千代田区丸の内1-8-2 <http://www.am-one.co.jp/>

運用経過の説明

基準価額等の推移



第100期首： 3,428円
 第105期末： 2,318円
 (既払分配金250円)
 騰落率： △26.2%
 (分配金再投資ベース)

- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、期首の基準価額に合わせて指数化しています。
- (注4) 当ファンドはベンチマークを定めておりません。

基準価額の主な変動要因

基準価額は下落しました。新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により金融市場のリスク回避姿勢が強まり、世界のハイイールド債券市場が急落したことが下落の要因となりました。業種別では、原油価格の下落によりリターンが軟調となった独立系エネルギーや、新型コロナウイルスの感染防止対策を受けての営業休止による業績悪化が懸念されたカジノなどのセクターが大きくマイナスに寄与しました。加えて、資源国通貨が対円で下落したこともマイナス寄与となりました。

◆組入ファンドの当作成期間の騰落率

組入ファンド	騰落率
D I A M ケイマン・トラスト・グローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド・カレンシー・セレクション 円建資源国通貨バスケットクラス	△27.0%
D I A M マネーマザーファンド	△0.1%

- (注) D I A M ケイマン・トラスト・グローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド・カレンシー・セレクション 円建資源国通貨バスケットクラスの騰落率は、分配金を再投資したものとみなして計算したものです。

1 万口当たりの費用明細

項目	第100期～第105期		項目の概要
	(2019年11月20日 ～2020年5月19日)		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	16円	0.542%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は3,026円です。 投信会社分は、信託財産の運用、運用報告書等各种書類の作成、基準価額の算出等の対価 販売会社分は、購入後の情報提供、交付運用報告書等各种書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価 受託会社分は、運用財産の保管・管理、投信会社からの運用指図の実行等の対価
(投信会社)	(4)	(0.139)	
(販売会社)	(12)	(0.388)	
(受託会社)	(0)	(0.016)	
(b) その他費用 (監査費用)	0 (0)	0.000 (0.000)	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用
合計	16	0.542	

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

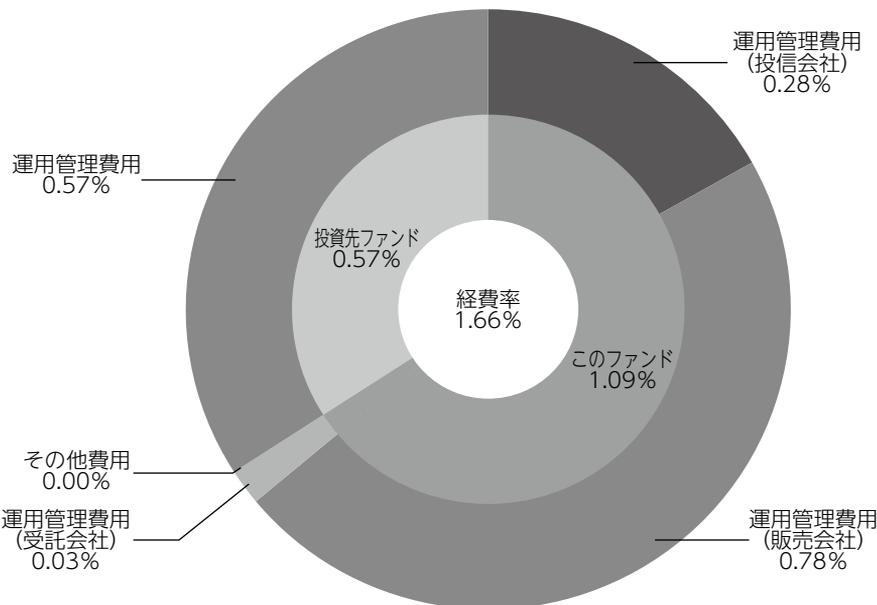
(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(注4) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く）が支払った費用を含みません。

(参考情報)

◆経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した経費率（年率）は1.66%です。



経費率（投資先ファンドの運用管理費用以外の費用を除く）（①+②）	1.66%
①このファンドの費用の比率	1.09%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.57%

(注1) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

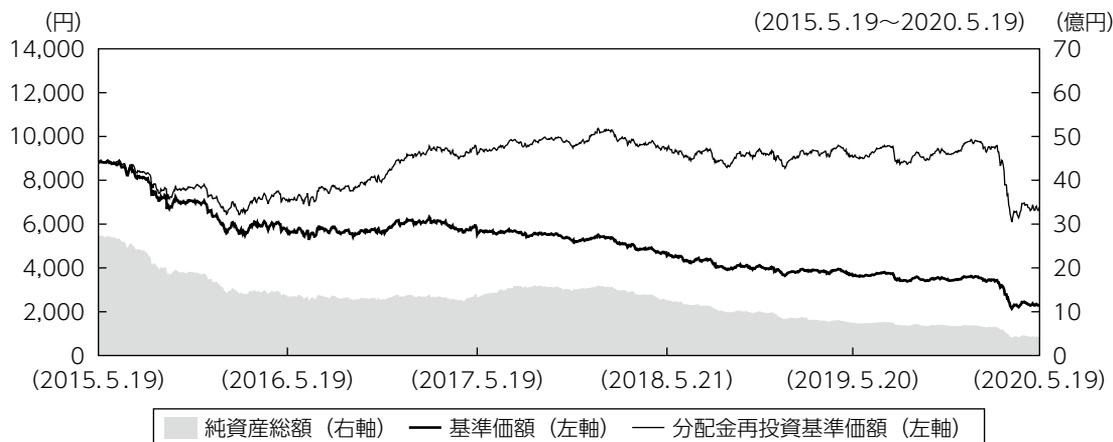
(注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注6) ①の費用と②の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 投資先ファンドには運用管理費用以外の費用がありますが、上記には含まれておりません。

(注8) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

最近5年間の基準価額等の推移



- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、2015年5月19日の基準価額に合わせて指数化しています。

	2015年5月19日 期首	2016年5月19日 決算日	2017年5月19日 決算日	2018年5月21日 決算日	2019年5月20日 決算日	2020年5月19日 決算日
基準価額 (分配落) (円)	8,806	5,624	5,535	4,555	3,639	2,318
期間分配金合計 (税引前) (円)	—	1,560	1,560	1,160	765	520
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)	—	△19.4	28.9	2.4	△3.4	△25.0
純資産総額 (百万円)	2,726	1,348	1,319	1,244	741	427

(注) 当ファンドのコンセプトに適した指数が存在しないため、ベンチマーク及び参考指標を定めておりません。

投資環境

当作成期の世界のハイイールド債券市場は前作成期末比で下落しました。米中貿易摩擦の緩和や米国の安定した経済成長を背景に、世界のハイイールド債券市場は2020年2月まで堅調に推移しました。しかし、新型コロナウイルスの感染が世界的に拡大し、各国で都市封鎖などが実施されたことから、3月に急落しました。その後、各国の金融当局が大規模な量的緩和策に踏み切ったことや、各国政府が景気刺激策を実施したことを受け、世界のハイイールド債券市場は一部値を戻す動きとなりました。

投資対象通貨である豪ドル、南アフリカランド、ブラジルレアルは全て対円で下落しました。豪ドルは、新型コロナウイルスの感染拡大により、世界経済が低迷すると懸念を受けて下落しました。南アフリカランドは新型コロナウイルスの感染拡大に加えて、国内経済の構造的な低迷や大手格付け会社により同国債が投資不適格級へ格下げされたことなどから下落しました。ブラジルレアルも、新型コロナウイルスの感染拡大に加えて、経済が長期的に低迷していることや、国内の政情不安、中央銀行の追加利下げなどから下落しました。

国内短期金融市場では、3ヵ月物国庫短期証券利回りは日銀の金融緩和政策の影響からマイナス圏で推移しました。日銀が黒田総裁の第2期就任以降も「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」を続けており、国債利回りには低下圧力がかかっていることが要因となりました。

ポートフォリオについて

●当ファンド

D I A M ケイマン・トラストグローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド・カレンシー・セレクトション 円建資源国通貨バスケットクラスの組入比率は、原則として高位を維持し、D I A M マネーマザーファンドへの投資も行いました。

●D I A M ケイマン・トラストグローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド・カレンシー・セレクトション 円建資源国通貨バスケットクラス

国別配分は、引き続き、米国を中心にユーロ圏および欧州周辺国のほか、一部新興国などを組み入れました。米国の比率を引き上げた一方、ユーロ圏および欧州周辺国の比率を引き下げました。セクター配分は、引き続き非景気循環消費財や通信などを中心に配分し、それらの比率を引き上げました。一方、エネルギーや資本財の比率を引き下げました。

また、米ドルを売り予約し、資源国通貨（豪ドル、ブラジルレアル、南アフリカランド）を買い予約する為替取引を行いました。

●D I A M マネーマザーファンド

残存期間の短い国債や政府保証債、地方債などで運用を行いました。

分配金

当作成期の収益分配金につきましては運用実績等を勘案し、以下の表の通りとさせていただきます。なお、収益分配金に充てなかった利益は信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

■分配原資の内訳（1万口当たり）

項目	第100期	第101期	第102期	第103期	第104期	第105期
	2019年11月20日 ~2019年12月19日	2019年12月20日 ~2020年1月20日	2020年1月21日 ~2020年2月19日	2020年2月20日 ~2020年3月19日	2020年3月20日 ~2020年4月20日	2020年4月21日 ~2020年5月19日
当期分配金（税引前）	45円	45円	45円	45円	45円	25円
対基準価額比率	1.24%	1.25%	1.31%	1.95%	1.86%	1.07%
当期の収益	45円	45円	45円	45円	45円	25円
当期の収益以外	-円	-円	-円	-円	-円	-円
翌期繰越分配対象額	3,124円	3,126円	3,130円	3,135円	3,143円	3,145円

(注1) 「当期の収益」および「当期の収益以外」は、小数点以下切捨てで算出しているためこれらを合計した額と「当期分配金（税引前）」の額が一致しない場合があります。

(注2) 当期分配金の「対基準価額比率」は「当期分配金（税引前）」の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。また、小数点第3位を四捨五入しています。

(注3) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損補填後の売買益（含、評価益）」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備積立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

今後の運用方針

●当ファンド

引き続き、D I A M ケイマン・トラスト・グローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド・カレンシー・セレクション 円建資源国通貨バスケットクラスを高位に組入れることを基本とした運用を行います。また、D I A M マネーマザーファンドへの投資も行います。

●D I A M ケイマン・トラスト・グローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド・

カレンシー・セレクション 円建資源国通貨バスケットクラス

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大と各国政府の制限措置により企業業績が落ち込み、世界のハイイールド債券市場のボラティリティが上昇する可能性があると考えています。一方、感染拡大が落ち着く兆候も一部で見られるため、ファンダメンタルズが底堅い銘柄については、中長期的には業績回復が期待できると見て、継続保有する方針です。また、主要先進国の金融当局による金融緩和策や各国政府による財政政策が金融市場を下支えすると見ています。今後も信託財産の保全を重視しながら良好なリスク調整後リターンを獲得をめざし、保守的な投資スタンスを維持する方針です。加えて、米ドルを売り予約し、資源国通貨（豪ドル、ブラジルリアル、南アフリカランド）を買い予約する為替取引を行います。

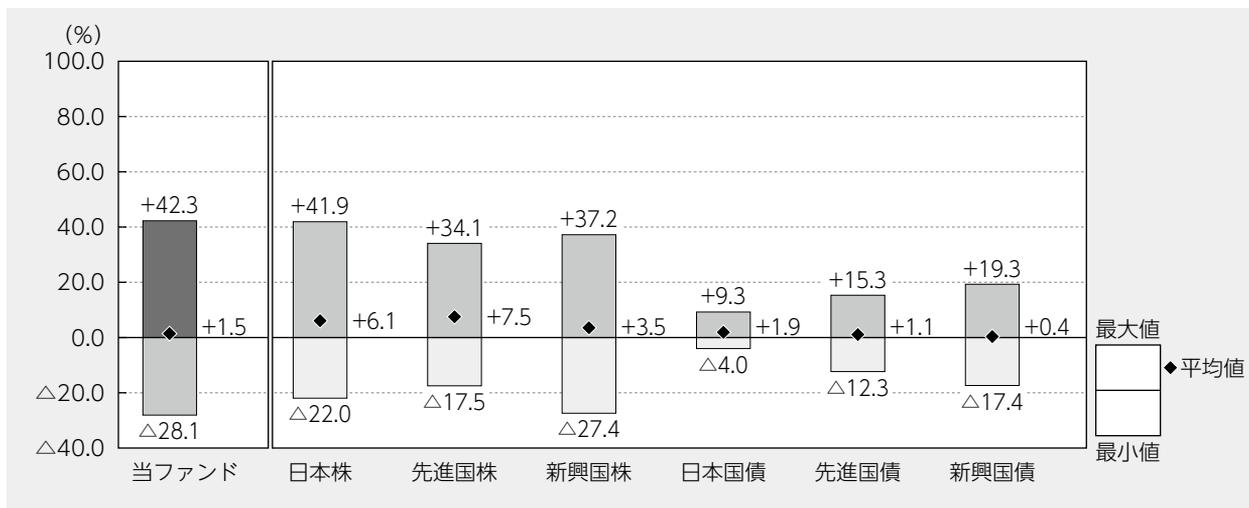
●D I A M マネーマザーファンド

日銀の物価目標である2%まではまだ距離があるため、当面は金融政策を据え置くと予想されています。今後も公社債を中心に投資を行い、安定的な運用をめざしていきます。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／債券
信託期間	2011年8月9日から2021年5月19日までです。
運用方針	高水準のインカムゲインの確保と、信託財産の成長をめざして運用を行います。
主要投資対象	主として外国投資信託である「D I A M ケイマン・トラスト・グローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド・カレンシー・セレクション 円建資源国通貨バスケットクラス」の投資信託証券へ投資を行います。また、証券投資信託である「D I A M マネーマザーファンド」受益証券への投資も行います。なお、短期金融商品等に直接投資する場合があります。
運用方法	<p>主として外国投資信託への投資を通じて、世界のハイイールド債券^(*)に実質的な投資を行います。外国投資信託への投資比率は、原則として高位を保ちますが、外国投資信託の流動性および当ファンドの資金動向等を勘案の上決定します。</p> <p>※外国投資信託において、米ドル建以外の通貨建資産に投資を行った場合には、原則として対米ドルでの為替取引を行います。</p> <p>(*) ハイイールド債券とは、S & P、ムーディーズ、フィッチのいずれかの格付会社によって、BB格相当以下に格付けされている債券をさします。</p> <p>外国投資信託においては、原則として米ドルを売り予約し、資源国通貨（豪ドル、ブラジルレアル、南アフリカランド）を買い予約する為替取引を行います。</p>
分配方針	<p>決算日（原則として毎月19日。休業日の場合は翌営業日。）に、経費控除後の利子配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額とし、基準価額水準、市況動向等を勘案して、分配金額を決定します。原則として利子配当等収益等を中心に安定分配を行うことを基本とします。ただし、分配対象額が少額の場合は分配を行わない場合があります。</p> <p>「原則として利子配当等収益等を中心に安定分配を行うことを基本とする」方針としていますが、これは、運用による収益が安定したものになることや基準価額が安定的に推移すること等を示唆するものではありません。また、基準価額の水準、運用の状況等によっては安定分配とならない場合があることにご留意ください。</p>

代表的な資産クラスとの騰落率の比較



2015年5月～2020年4月

(注1) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を、ファンドおよび代表的な資産クラスについて表示し、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。なお、上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注3) 当ファンドの騰落率は、税引前の分配金を再投資したものと計算しています。

*各資産クラスの指数

日本株…東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株…MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株…MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債…NOMURA-BPI国債

先進国債…FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債…JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースィファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

※各指数については後掲の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

当ファンドのデータ

当ファンドの組入資産の内容（2020年5月19日現在）

◆組入ファンド等

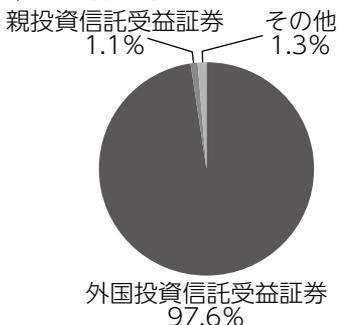
（組入ファンド数：2ファンド）

	第105期末
	2020年5月19日
D I A M ケイマン・トラストグローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド・カレンシー・セレクション 円建資源国通貨バスケットクラス	97.6%
D I A M マネーマザーファンド	1.1
その他	1.3

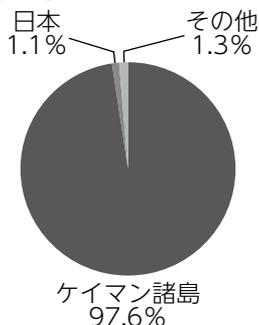
（注1）比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

（注2）現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

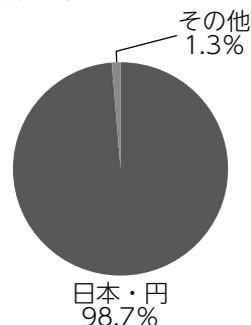
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



（注1）比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

（注2）現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

純資産等

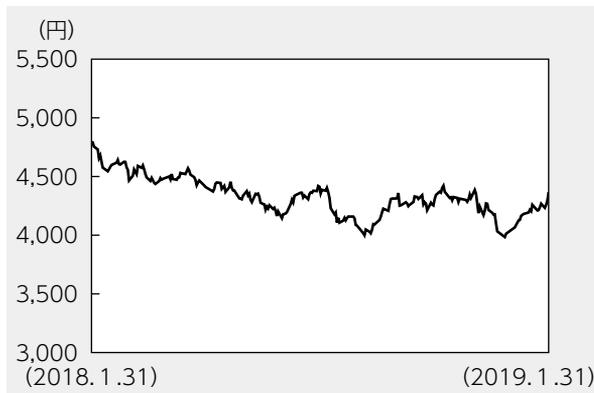
項目	第100期末	第101期末	第102期末	第103期末	第104期末	第105期末
	2019年12月19日	2020年1月20日	2020年2月19日	2020年3月19日	2020年4月20日	2020年5月19日
純資産総額	691,374,718円	673,362,554円	641,147,795円	428,313,183円	446,560,571円	427,390,509円
受益権総口数	1,930,749,979口	1,897,424,904口	1,889,857,032口	1,891,406,770口	1,876,796,672口	1,844,131,077口
1万口当たり基準価額	3,581円	3,549円	3,393円	2,265円	2,379円	2,318円

（注）当作成期間（第100期～第105期）中における追加設定元本額は11,873,257円、同解約元本額は140,564,769円です。

組入ファンドの概要

[D I AM ケイマン・トラスト・グローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド・カレンシー・セレクション 円建資産国通貨バスケットクラス]
(計算期間 2018年2月1日~2019年1月31日)

◆基準価額の推移



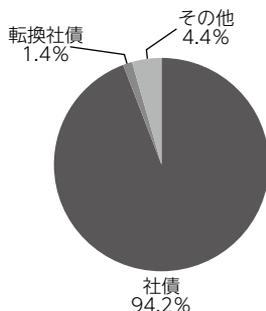
◆組入上位10銘柄

銘柄名	通貨	比率
VRX ESCROW CORP 4.500% 05/15/23	ユーロ	1.8%
VODAFONE GROUP FxtoVA 10/03/78	アメリカ・ドル	1.7
ALLEGHENY TECH 5.875% 08/15/23	アメリカ・ドル	1.7
CSC HOLDINGS LLC 10.125% 01/15/23 144	アメリカ・ドル	1.4
GOLDEN NUGGET 8.750% 10/01/25 144A	アメリカ・ドル	1.4
DOLE FOOD CO 7.250% 06/15/25 144A	アメリカ・ドル	1.3
ARDAGH PKG FIN 7.250% 05/15/24 144A	アメリカ・ドル	1.2
JACOBS ENTERTAIN 7.875% 02/01/24 144A	アメリカ・ドル	1.1
ZEKELMAN IND 9.875% 06/15/23 144A	アメリカ・ドル	1.1
INTER MEDIA COMM 4.875% 12/31/22	ユーロ	1.0
組入銘柄数	171銘柄	

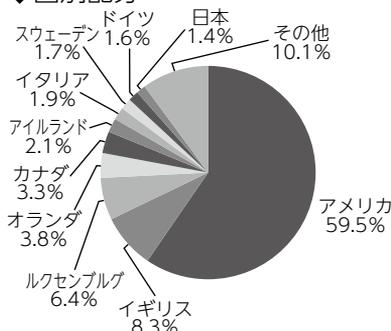
◆1口当たりの費用明細

当該情報の取得が不可能なため開示しておりません。

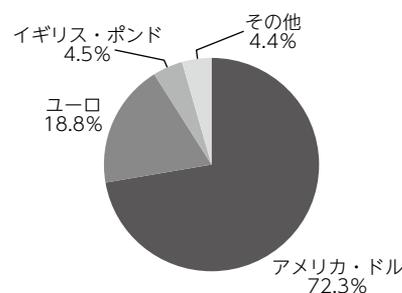
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



(注1) 基準価額の推移はD I AM ケイマン・トラスト・グローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド・カレンシー・セレクション 円建資産国通貨バスケットクラスの計算期間(決算日が休日の場合は前営業日まで)のもので、また、分配金を再投資したもとしてアセットマネジメントOneが作成したものです。

(注2) 組入上位10銘柄、資産別配分、国別配分、通貨別配分については、D I AM ケイマン・トラスト・グローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド・カレンシー・セレクションの決算日(決算日が休日の場合は前営業日)現在の状況を表示しております。なお、組入外貨建資産については、D I AM ケイマン・トラスト・グローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド・カレンシー・セレクション 円建資産国通貨バスケットクラスにおいて、米ドルを売り予約し、資源国通貨(豪ドル、ブラジルリアル、南アフリカランド)を買い予約する為替取引を行っています。

(注3) 比率はD I AM ケイマン・トラスト・グローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド・カレンシー・セレクションの純資産総額に対する組入有価証券評価額の割合です。

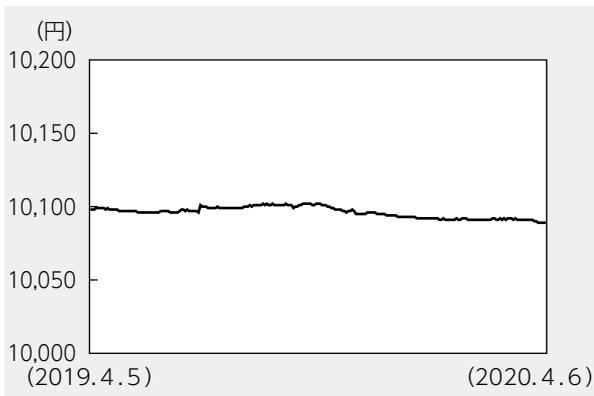
(注4) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

(注5) 国別配分については、上位11位以下をその他に含めて集計しています。

(注6) 組入上位10銘柄、資産別配分、国別配分、通貨別配分のデータは、管理事務代行会社である米国みずほ銀行のデータを基にアセットマネジメントOneが作成したものです。組入全銘柄や費用の総額に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)に記載されています。

【DIAMマネーマザーファンド】（計算期間 2019年4月6日～2020年4月6日）

◆基準価額の推移



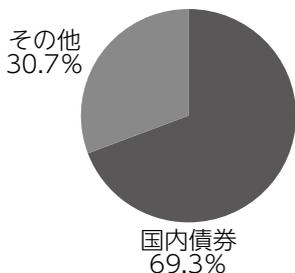
◆組入上位10銘柄

銘柄名	通貨	比率
389回 利付国庫債券（2年）	日本・円	26.3%
391回 利付国庫債券（2年）	日本・円	17.6
392回 利付国庫債券（2年）	日本・円	8.8
388回 利付国庫債券（2年）	日本・円	8.8
112回 政保日本高速道路保有・債務返済機構	日本・円	2.6
474回 名古屋市公募公債 10年	日本・円	1.3
27年度2回 千葉県公募公債	日本・円	1.3
27年度 京都府京都みらい債	日本・円	1.2
117回 政保日本高速道路保有・債務返済機構	日本・円	0.5
133回 政保日本高速道路保有・債務返済機構	日本・円	0.4
組入銘柄数	11銘柄	

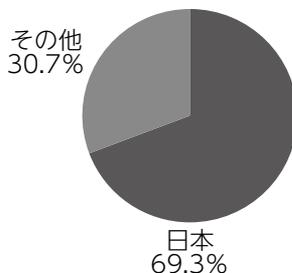
◆1万口当たりの費用明細

計算期間中に発生した費用はありません。

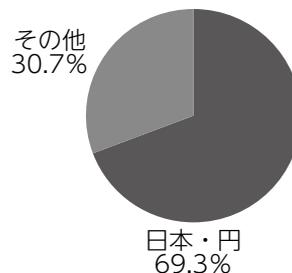
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のもので。

(注2) 組入上位銘柄、資産別配分・国別配分・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注3) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注4) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

(注5) 計算期間中の運用経過や組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

- 「東証株価指数（TOPIX）」は、東京証券取引所第一部に上場されているすべての株式の時価総額を指数化したものです。同指数は、株式会社東京証券取引所（株東京証券取引所）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、(株)東京証券取引所が有しています。
- 「MSCIコクサイ・インデックス」は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、日本を除く世界の主要先進国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「MSCIエマージング・マーケット・インデックス」は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、新興国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「NOMURA-BPI国債」は、野村證券株式会社が国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表すために開発した投資収益指数です。同指数の知的財産権その他一切の権利は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、同指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。
- 「FTSE世界国債インデックス（除く日本）」は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。
- 「JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド」は、J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが公表している新興国の現地通貨建ての国債で構成されている時価総額加重平均指数です。同指数に関する著作権等の知的財産その他一切の権利はJ. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。また、同社は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

(このページは白紙です)

(このページは白紙です)

